

KITANO

きたのみどり

MIDORI

北海道立林業試験場 緑化樹センター

No.
10

ハマナス類新品種の生産が始まります

緑化樹センターで開発し農林水産省に品種登録の出願をしていたハマナス類新品種4種類が、2003年9月8日に出版公表されました。出版公表とは、出版品種を利用した者が不測の損害を被らないよう、出版中の品種であることを広く公示するとともに、出版者に一定の保護を与えるための仕組みです。詳しくは農林水産省のホームページ (<http://www.hinsyu.maff.go.jp/>) をご覧下さい。

そして2003年12月に道と北海道緑生会の間で、新品種についての苗木の生産や販売に関する許諾契約が結ばれました。これにより、2004年からは本格的に新品種の苗木の生産が始まることとなります。生産は挿し木によって行いますので、新品種の苗木が一般に流通するまでには3年程かかると思いますが、我々の開発した品種が公園や園芸店の店頭に並び日を楽しみにしていただきたいと思います。



コンザレッド
(ヤマハマナス×ルブリフォリアバラ)



プリティーシャイン
(ヤエハマナス×ノイバラ)



ノーストピア
(ヤマハマナス×ノイバラ)



北 彩
(ルブリフォリアバラ×ハマナス)

海浜植生の復元試験を行っています

北海道は自然が豊かと言われており、優れた景観の自然公園（国立公園、国定公園、道立自然公園）は23箇所もあります。このうち、海岸地域を含んでいる自然公園は13箇所あります。しかし、自然公園に編入されなかった地区あるいは自然公園内においても、過度のレクリエーション利用や砂利採取によって、植生を失って荒廃が進んでいる海浜が見られます（写真-1、2）。

緑化樹センターでは、これら荒廃した海浜にもともと生育していた植生を復元し、良好な景観を再生するため、林業試験場各科とともに、道立環境科学研究センター、道立地質研究所、石狩市海浜植物保護センターと共同で研究を進めています。緑化樹センターは、海浜植物の増殖と現地への導入試験を担当しています。

海浜植物の増殖は、荒廃した海浜周辺で採取した植物の地下茎や株を苗畑で大きく育てる方法と、現地生育植物の種子を採取して苗を作る二通りの方法を行なっています。地下茎の増殖試験では、成長が良いハマニクやハマヒルガオは苗畑に移植して5ヶ月後には50~250cmも地下茎が伸長することがわかりました（写真-3）。種子による苗作りも比較的容易で、樹木は2~3年、草花は2年で現地に返すことが可能な大きさになりました。また、草花の開花は早く、多くの種で播種2年目の夏から秋には花が咲きました（写真-4）。

荒廃海浜への植物導入試験は、砂採取跡地に土砂を搬入した場所で行っています（写真-5）。現在、木本90本（10本×9区）、草本63株（10株×3区+11株×3区）を試験植栽しています（写真-6）。植栽した植物のうち、樹木は海からの強い塩風によって苗木上部の枯損が多く見られましたが、新たに萌芽枝を出している苗木も多く、植栽区別の生存率は60~100%でした（写真-7）。草本は球根が大きい種は生存率が高く、花も多数咲いていましたが、背の低い種では侵入してきた外来草と競合し、生育が阻害されていました。

次年度は、砂丘に似せた地形を作り、外来草の侵入が少なく、海浜植物の導入に適した植栽条件を試験します。また、新たに海浜に生育している木本5種、草本7種を試験植栽して、荒廃海浜で外来草に負けないで生育できる植物を探していきます。



写真-1 砂を採取した跡のくぼ地に水が溜まった状況（幌延町）



写真-2 レクリエーションを目的とした車両の通行で、植生が失われ風食が進んだ砂丘（石狩市）



写真-3 ハマニンニク 元の株から伸びている地下茎 (美唄市の苗畑)



写真-4 ノハナショウブ播種
2年目の夏に開花
(美唄市の苗畑)



写真-5 砂採取跡地に土砂を搬入した場所



写真-6 荒廃海浜に試験植栽した木本と草本



写真-7 試験植栽後半年経過
上部が枯れたミズナラと大きく育っている球根草花

道産緑化樹を用いた人工交配等による新しい緑化材料の開発

近年、地域の特性にあったみどり・森林づくりが求められていますが、新たな緑化樹の開発についても北海道産樹種をもとにした開発が望まれています。緑化樹センターではこれまで「北海道の花」に指定されているハマナス類4品種の登録出願を行うほか花の色が濃い紅色の子シマザクラを品種登録するための調査をすすめているところです。

当センターではさらにサクラ類やナナカマド、アカエゾマツなどを用いて、新たな緑化材料の研究開発に取り組んでいます。特にサクラ類では、道内に自生しているエゾヤマザクラ、チシマザクラ、カスミザクラを材料とし、これまでにない樹形のもの、開花の早いもの・遅いものや八重咲き個体などの開発を目標にしています。

サクラ類の新たな品種作出の方法として、人工授粉による3樹種間の交雑や種子に対するγ線照射などを行っています。また、チシマザクラにエゾヤマザクラやカスミザクラを接ぎ木して、わい性のサクラをつくることにも挑んでいます。

新品種作出のためにはかなりの年数を要することが予想されますが、当センターでは今後とも研究開発を継続的に行っていきます。そして将来「北海道産ブランド」となるような新たな緑化樹の開発をめざしています。



写真-1 エゾヤマザクラ



写真-2 チシマザクラ

緑化樹Q & Aコーナー

Q. 最近アロニア・メラノカルパという木の実を使ったジャムやゼリーなどを見かけますが、この木の特徴や増殖方法や管理の仕方などを教えてください。

A. アロニア・メラノカルパ (*Aronia melanocarpa*) は、北アメリカ原産の落葉低木です。幹は根本から多数分かれ出て、成長すると高さ2～3m程になります。花は白色(写真-1)で、直径1cm程の小さな花が多数集まって付きます。果実は球形で、直径は約1cm、黒く熟します(写真-2)。ロシアでは果実を採取し、加工するために広く栽培されており、果実には眼に良いとされるアントシアニンという成分を多く含んでいます。当場には、1989年にロシアのハバロフスク市内の木から種を採取し、養成した木が植栽してあります。

増殖はふつうはタネでおこないます。さし木でも発根しますが、発根率はあまり高くはありません。また、当場では組織培養による増殖技術を開発(写真-3)しており、現在は果実が大きくて収量の多い木の苗が多数生産されています(写真-4)。

苗木は日当たりが良い場所で、水はけが良く、栄養分に富んだ土に植えます。実生苗、培養苗とも早いものは3年目ぐらいから花や実を付け始めます。寒さにはとても強いので、全道各地で栽培することができますが、雪の多い所では雪で折れないようにしっかりと冬囲いをします。今までのところとくに大きな被害をもたらすような病虫害は発生していません。ぜひ庭などにアロニア・メラノカルパを植えてみてはいかがでしょうか。



写真-1 花



写真-2 果実



写真-3 組織培養による増殖



写真-4 培養苗の生産

緑化樹生産者の声

近年日本経済は長期にわたり低迷状態が続いており、また、国等の財政状況の悪化から公共事業の見直し等がおこなわれています。それに伴って緑化樹の生産や使用量も減少し、緑化樹の生産をやめる人がふえております。昭和61年度を100とした場合、平成14年度では生産者数で27、生産本数で36に減少しています（表－1）。このような状況のなか、緑化樹生産者から意見や悩み等を聞いてみました。

- ・樹木の生産には年数を要するため、需要の動向を把握して生産しなければならない
- ・需要の動向の把握が難しく、多量に生産した苗の販売量が予定よりも少なく、残った苗木の処置に苦労している。
- ・販売競争の影響で価格が低迷し、採算割れしている。
- ・緑化樹は、枯れ保証、担保1年の関係で養成費用やメンテナンスを強く要求される。
- ・品質保証で、規格や生産地を問われるようになり対応に苦慮することがある。
- ・エリカ類・カルーナなどのグランドカバープランツは、需要の変動が大きいので、生産しづらい。
- ・機械導入等でコスト低減を図りたいが、人手を要する分野が多く予算もないので困難である。
- ・緑化樹の生産や管理を行う技術者が少なく、経験を頼りにおこなっているのが現状。
- ・今後、どの様な緑化樹がどの様に利用されるか、先行きが見えなく、将来ビジョンを持つての緑化樹の生産はできない。
- ・市場にない新しい緑化樹がほしい。

緑化樹に対する人々のニーズは多様になっており、また、新たな産業の発展への可能性を秘めており、これらの緑化樹関連産業の育成と活性化のために、緑化樹センターでは生産者の皆様方のご意見を参考にしつつ、魅力ある緑化樹の開発や生産技術・管理技術の向上を目指して調査研究をおこなうと共に、需要の動向や緑化樹に関するさまざまな情報を提供していきます。

表－1 緑化樹生産者の推移

	生産者数		圃場面積		生産本数	
	人数(人)	指数	面積(ha)	指数	本数(千本)	指数
昭和61年度	547	100	531	100	7,174	100
平成3年度	202	37	592	111	12,697	177
平成9年度	198	36	518	98	6,490	90
平成14年度	145	27	448	89	2,605	36

緑化相談等の経過 (7月～12月 関係分のみ記載)

1 現地技術指導

期 間	事 業 ・ 指 導 名	場 所	対 象 者	派遣職員
6月26日	北海道公園緑地技術委員会	札幌市	北海道公園緑地技術委員	佐藤主任研究員
7月31日	森林土木効率化等技術開発モデル事業検討委員会	札幌市	森林土木効率化等技術開発モデル事業検討委員	清水管理技術科長 棚橋研究職員 中川研究職員
9月1日	樹木に関する専門調査会	札幌市	樹木に関する専門調査会委員	佐藤主任研究員
9月16日	樹木に関する専門調査会	札幌市	樹木に関する専門調査会委員	佐藤主任研究員
10月6日	樹木に関する専門調査会	札幌市	樹木に関する専門調査会委員	佐藤主任研究員
10月9日	樹木の同定について	札幌市	東本願寺札幌別院	佐藤主任研究員
10月15日	樹木に関する専門調査会	札幌市	樹木に関する専門調査会委員	佐藤主任研究員
10月26日	釧路川河川整備計画検討委員会(ふるさとの川推進懇談会)	釧路市	釧路川河川整備計画検討委員	清水管理技術科長
12月17日	るもい21みどりのサポート事業ポイントマップ対象予定地調査	留萌市 ほか5町	留萌支庁管内緑化関係者並びに緑化技術の習得を志す人	清水管理技術科長
9件				

2 講師派遣・技術指導など

期 間	研 修 名	対 象 者	受講者	場 所	派遣職員
6月5日 6日	技術部門専門研修(剪定)	北電管配エンジニアリング(株)職員	24	林業試験場	清水管理技術科長 棚橋研究職員
7月3日 4日	森林とみどりの担い手養成セミナー「緑化技術応用講座」	林業指導者・緑化関係者ほか緑化技術の習得を志す人	15	林業試験場	佐藤主任研究員 清水管理技術科長
7月14日	美唄市老人クラブ研修会	美唄市老人クラブ会員	80	林業試験場	佐藤主任研究員
8月26日	日高管内商工会女性部連合会「パイロット事業」に係る「ハマナス」の勉強会	日高支庁管内商工会女性部	25	静内町	佐藤主任研究員
9月18日	緑化技術現地講習会	渡島支庁管内の民間・市町村・道・国の緑化担当者	82	大野町	佐藤主任研究員 八坂管理技術科長
10月9日	緑化技術現地講習会	檜山支庁管内の民間・市町村・道・国の緑化担当者	62	今金町	清水管理技術科長 中川研究職員
10月23日 10月24日	技術部門専門研修(剪定)	北電管配エンジニアリング(株)職員	21	林業試験場	清水管理技術科長 棚橋研究職員
10月31日	さくら維持管理講習会	根室支庁管内地域住民	25	中標津町	佐藤主任研究員 脇田研究職員
8件			334人		

3 緑化相談

7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
12件	7件	9件	7件	6件	6件	57件

緑化技術基礎講座・応用講座開催のご案内

北海道立林業試験場では、林業や身近な緑の環境づくりなどに携わる担い手を養成するため、平成16年度に「森林とみどりの担い手養成セミナー」を開催します。緑化樹センターでは、このセミナーの中で、下記の講座を開催します。

講座名	主な内容	開催場所	開催月日
緑化技術基礎講座	緑化樹の増殖と維持管理など基礎的な緑化技術	本場	6月16日～17日
		道南支場	5月12日～13日
		道東支場	8月26日～27日
		道北支場	6月24日～25日
緑化技術応用講座	(Ⅰ) 緑化樹の維持管理技術	本場	7月1日～2日
	(Ⅱ) 緑化樹の組織培養技術	本場	2月23日～25日

詳しい講座内容を知りたい方、または受講を希望される方は、下記の連絡先にお気軽にお問い合わせください。



グリーンダイヤルは
あなたのダイヤルです



「緑化樹」や「緑を育てる」質問・相談をお受けしています。
お気軽に電話してください。すばやく、詳細な情報をお届けします。

連絡先

緑化樹センター(林業試験場) TEL 01266-3-4164 FAX 01266-3-4166
 林業試験場 道南支場 TEL 0138-47-1024 FAX 0138-47-1024
 林業試験場 道東支場 TEL 01566-4-5434 FAX 01566-4-5434
 林業試験場 道北支場 TEL 01656-7-2164 FAX 01656-7-2164
 ホームページ <http://www.hfri.bibai.hokkaido.jp/>

試される大地
北海道

発行年月 平成16年3月
 編集・発行 北海道立林業試験場 緑化樹センター
 〒079-0198
 北海道美幌市光珠内町東山